

受賞作品の講評

【建築物・まちなみ部門】



四季折々の花が楽しめる通学路

■所在地:字川田266番地1

■所有者:上江洲 安昭

(講評) 前回活動部門で景観賞を受賞した「川田美ら島通り会」会長の上江洲氏は、県道16号線に面する自宅の敷地をたくさんの花や緑で溢れさせ、行き交う車両や通行人、そして特に通学路として歩いている子どもたちの目を楽しませている。また、季節ごとにその表情を変える花はまさしく作品タイトルのお通りであり、一年を通して見る人の心を和ませている。花や樹木を丁寧に、そして心を込めて手入れしているのが十分に感じられ、更に立地的条件を活かしながら、地域に対する貢献が十分に果たされている点が非常に評価できる。道路等、公共空間から見る事ができる敷地内緑化のモデルとなりえる作品である。



緑の門扉がある家

■所在地:字赤道359番地1

■所有者:久田 友孝

(講評) 無機質になりがちなコンクリートの塀に木目調の杉板を施し、表情豊かな壁にすることによって道行く人への圧迫感が軽減されている。その塀の上に沖縄に自生している花や木の緑が道路に飛び出さないばかりに溢れており、更にその後ろに屋根の赤瓦が見えるという、塀、花、緑、赤瓦の一つ一つの存在感と建築物として見た場合の全体のバランス感が非常に素晴らしい。限られた建築素材を使用して、公共空間の景観に対する配慮がされていることにより、道行く人に癒しの空間を提供しており、地域への貢献度が非常に高い作品である。



海中道路

■所在地:与那城中央・屋平・平安座

■所有者:沖縄県

(講評) うるま市が沖縄県内・県外はもとより、世界に誇れるシンボル道路である。既に観光名所としての存在感を確立させており、更に来年には夜間ライトアップ事業が開始される等、これまで以上に多くの人に感動を届ける場所になる。上空や勝連城跡から見た海中道路は、まさにここでしか見ることができない眺望であり、その壮大な光景に何度見ても魅了されてしまう。その見事な景観で、今後も本市の観光面に多くの貢献が期待できる場所である。